



2858
13





禪ぜん字じ在ざい草そう帝ていの趣しゆ向かうハ以り利り非ひ其その原げんと論ろんて
 曰いは利り分ぶん時ときハ自まづ然ぜんと已とガ非ひと各それぞれ其そのを以もつて
 利り非ひ善ぜん惡あくの二ふたツハ伊い井せい後ご伊い特とく冊さくの二ふた神かみあり
 史し神かみ道みち仙せん道みち遠とほきハ伊い井せい後ご伊い特とく冊さくの二ふた神かみあり
 道みち二ふた筋すぢ何なに季きとつゞきと家いえハ一ひと筋すぢの定さだ概がいあり
 定さだの字じハ神かみ也なり法はふの字じハ仙せん也なり也なり也なり也なり也なり也なり
 仙せん道みちの枝えだ也なりと毛け唐たう久く懺ぜん王わうと開ひらき通とほる人ひとの頼たの風ふう
 糸いと穿うり不ふ月げつ額がくをつゞき續つづきつゞき大小だいせうも其その業わざ
 と由よし覺かく不入ふらり安やす錢せんの高たか下したハ如ごとくす中ちゆうニ帝ていが
 十六じゅうろく又また外がいの高たか費ひハ彭へいの宗そう一ひと作つく者もの知しるは海かい氷ひょう
 案あん一ひと一ひと志しやる事ことニ平へい 海水かいすい戲ぎ作さく

せねあよあよ米七斗でいそ体をは合六夕
 又せねあよあよ米七斗合ふ百又て合九夕
 ちごうせねの申すいらくこのついで
 せねをうむがさでまねの上も
 一トトもよ一とれりせんち
 已ごうあまくとちりい
 金銀ふちりちりい
 一とくくせねのやすい
 武士と百姓のたまん
 あるい官のちあき人
 せねあよあよ米七斗
 張まどさけぬ
 見えなら今午の大小みまど



上あよもは下あよもより
 是と抑り
 今こそまねせね
 らあよあよ
 せねあよあよ
 米七斗でいそ
 体をは合六夕
 又せねあよあよ
 米七斗合ふ百又
 て合九夕
 ちごうせねの申す
 いらくこのついで
 せねをうむがさで
 まねの上も
 一トトもよ一とれり
 せんち
 已ごうあまくとちり
 い
 金銀ふちりちりい
 一とくくせねのや
 すい
 武士と百姓のたまん
 あるい官のちあき人
 せねあよあよ米七斗
 張まどさけぬ
 見えなら今午の大小
 みまど

あつ



多怒のう二はん
 ぞろほろせむむ
 一すぢみち八方三方
 南む妙法山げまう
 ちらんく
 それいも川なむい年く
 夫あうすすむいトそれ
 子もも流の心かこうそれ
 押ふんすむぬ
 けい
 くれはろこ二更
 ぶんしうまそ
 仕まらて
 糸
 尖る
 の
 代まそまけふせよ



みきりんとねりゆるくすす死ぬ
 いしーいふきすくさふか
 せむもあしーかげこむい
 ハゆそろそろさそそそ
 おやトうとちりん
 ぼろそころそそい
 あうたのそま
 むめろやいよいや
 車カのたちんでみちれーへんま町
 かまじすすふためんむまのすまみ
 りさりあむいのもんはほうり子そのの
 かつあんほうこ尺ほうてハみじうち
 ちんほうしてハ
 かがわろふせう
 せうるのう抱系
 ーや車子
 のせろろ
 ーのんほうかろて

ひく
 ぶ車
 子
 ぶ
 ぶ

からのゆいとしのふち三百の

りひでとせんい
つよくまじり
あつて万人よ
すれれちん
りうの
人ま
が金限
何十方ぬ
とあれす
たくまが
かりひ
まーつとくち
れれ男子
を人ユ一て
のれをとあり
金とろとせ
後山名
先納とる
十六文六ト



何れおむとかけて
納てニメよけい上
上名
何すけ
何すけ
何すけ

何れおむとかけて
納てニメよけい上
上名
何すけ
何すけ
何すけ



一徳も人の十才二千五両付ます
 さて置たくしととの令下りけ
 志とり本物いの人ところ
 これをどおし一人の大せ
 を令とかりとどりて
 かつてよつふて
 すすくちちもどれ
 かつあさう

これ実ちの
 ころやあつる令下
 りせとつる令下れ
 大せいさころ
 ねすころ令下り
 うすころ令下り
 今とてあつる令下り
 たのしむ大それとやつ
 これやあつる令下り



とうそくの
 七あさう
 大さのせり
 ぶて
 たの
 む

かしとあつる令下り
 せとつる令下り
 せとつる令下り
 せとつる令下り
 せとつる令下り
 せとつる令下り
 せとつる令下り
 せとつる令下り
 せとつる令下り

れいとあつる令下り
 せとつる令下り
 せとつる令下り
 せとつる令下り
 せとつる令下り
 せとつる令下り
 せとつる令下り
 せとつる令下り

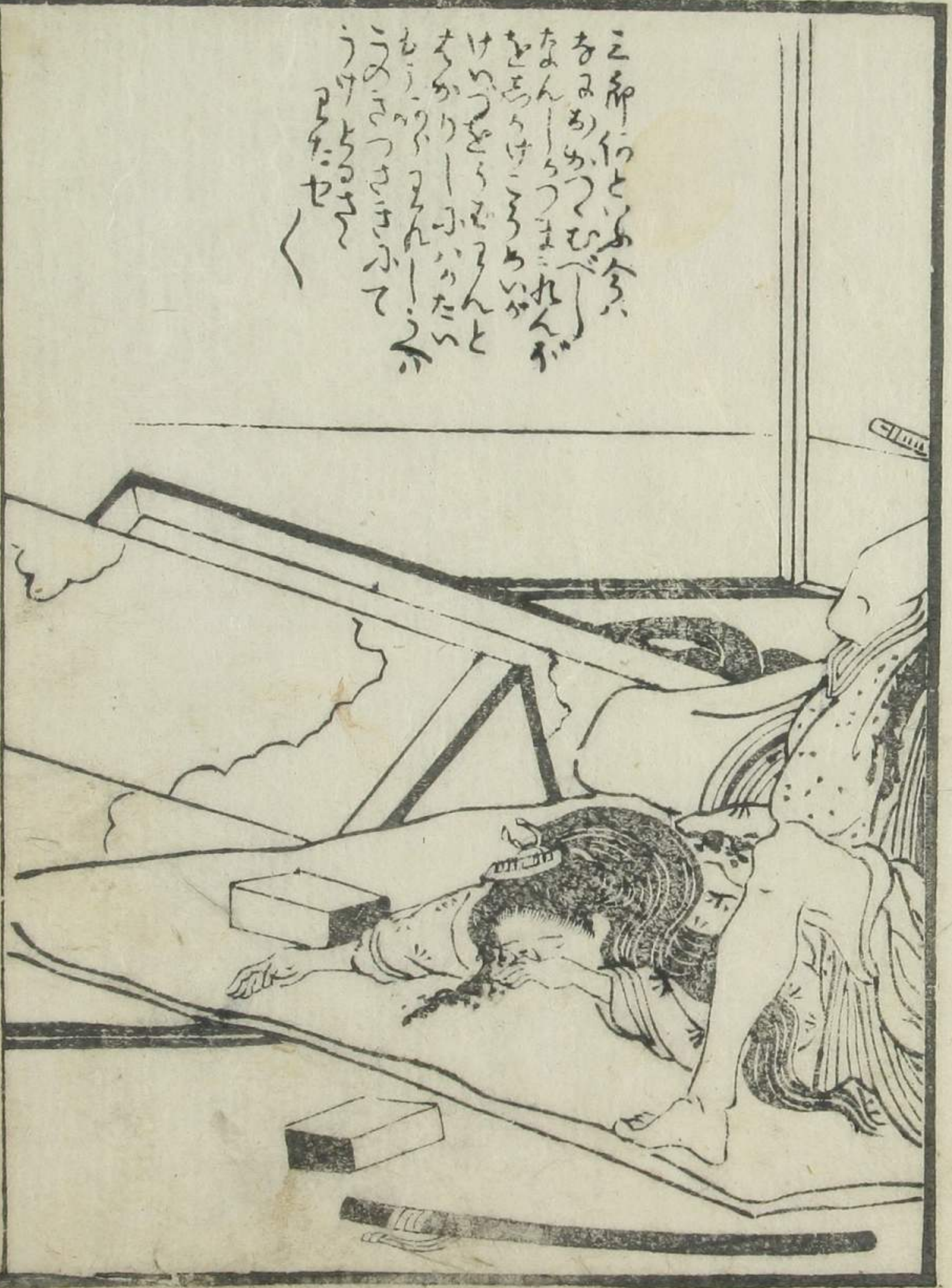


ひん
 びん

龜ちりおのれ金銀まそ
 女のふとうまの秋のくの
 けのすせうをこんとそ
 かる人北人あなはのくも
 四自余馬う日かまて
 とも名をあら
 王せーらり
 びこりめいの
 けのすまて
 べーやいせの
 いらまそせん
 三ちかそく線
 のあんまの
 ちちうくんせ



三神何といふ金
 ちりおあつむむ
 なんしちつまねんが
 をあけこころい
 けいせうをこんとそ
 ちかりしおいかたい
 ちりおあつむむ
 こみさつさきかて
 うけとるさ
 ちちせ





よんばさくをう
 するにのち
 百姓の人の
 ては人のを人
 きよかまごす
 ちゆくのふとなく
 ちて人をとるし
 とやいとすまう
 うむいとすまう
 びくいとすまう
 いちやいとすまう
 ちよいとすまう

つれると二むのり
 ちかくもりすつみ
 ちやくとあんくと
 さすてあまりす
 ちすのこのおさ
 ちかして面はす
 んんぶのれさや
 二ドはこふた
 ませぬちとち
 あんをそれ



とてぶしん大はる
 これきとや他を
 ちやくとややく
 をもつてうけ
 より人うしや
 いらあちよ
 ちたてのち
 けふんが
 たるのち
 きるのち
 ちかの中
 ちか
 ちか
 ちか

どんぶつと
 あつちや
 ちか
 ちか
 ちか
 ちか
 ちか
 ちか

さう
 ちか
 ちか
 ちか
 ちか



あつちのうらな
 ままこのこび
 やまーごまに
 あうまう
 勢村
 ふあんはあし
 つけれ
 こぢんせい
 はごなよれど
 ありか
 んん



とくふーんで
 ちやうりてい
 やく人あけん
 ぶんのとこ

さて
 よくて
 こんで
 あく
 たもつで
 りろろ
 むらや
 とど
 たき

びやくしはうと
 あれまをてつぼと
 かけるこれさこれ
 日本のおおりの
 とりし

ちまのハハを
 よくおぼえてこきり
 すすかそれまんぶつ
 ぶをもちては人の
 さいとまんと弁こきり
 すすちまのよきに
 りうで中とれれて
 百ちよつふれます
 これさゆんち
 ちまのよきに
 くらりまを



とくのあいこれ
 あれまをうかまの
 ちまのハハと
 ちまのハハと
 ちまのハハと

びやく
 ちまのハハと
 ちまのハハと
 ちまのハハと
 ちまのハハと



くちを一人をもつて...
 人なりまたかくもんかあちりひり...
 けひさし...
 まんちうでわごりかけ...



さて
 のとがある
 たるのけしきと
 え日の子
 なく神の子

子の目なる...
 そうと...
 とりりて...
 やれで...
 物...



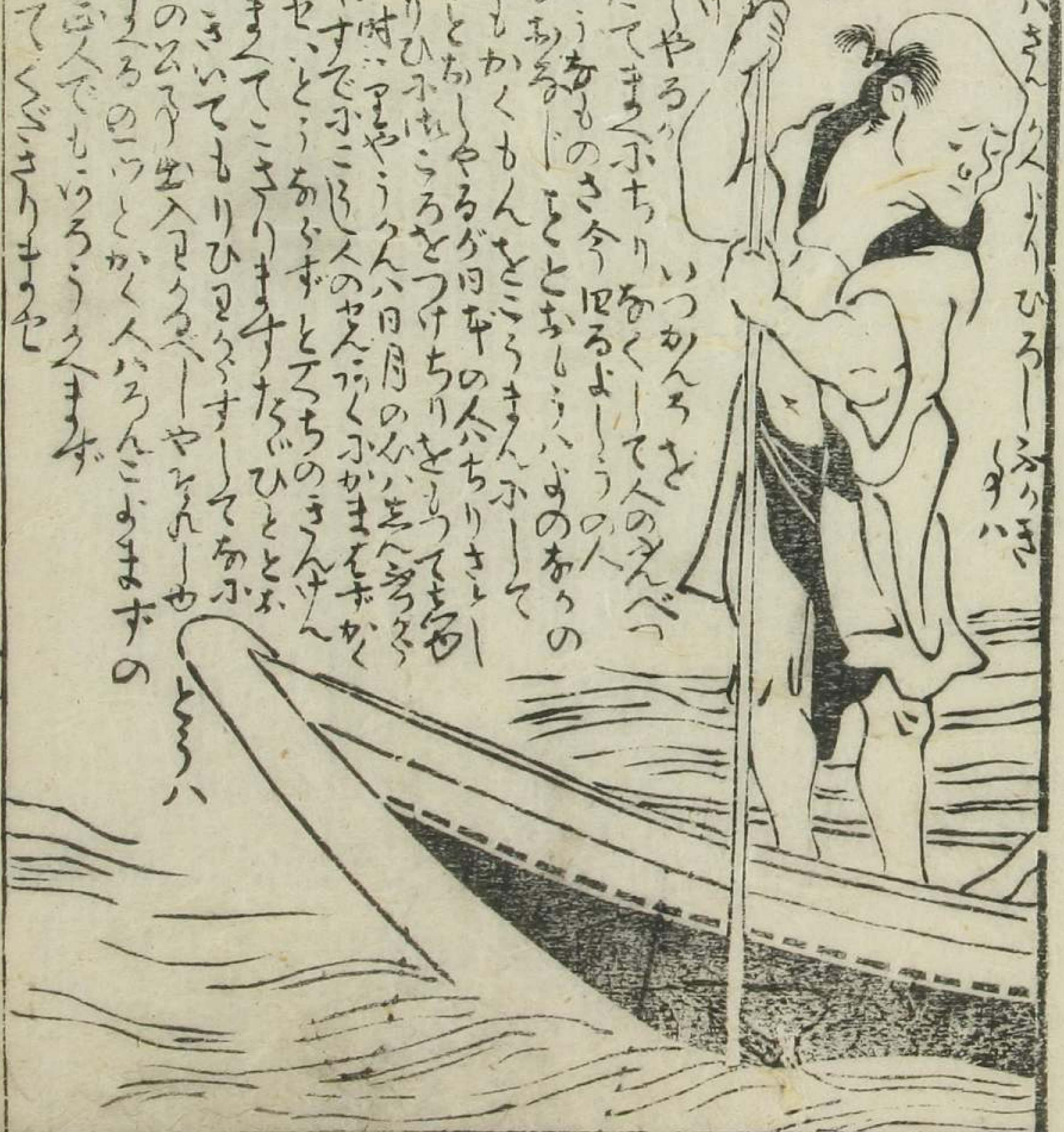
こゝろ
 ふい...

あんとあまのりかけんいしね
 そしてうまいさけけんち
 としかんとせんどうけんま
 をつちいやくやがめんべつと
 りふゆりまていらやい

あまむいさまめんべつ
 のふつねえめんべつ
 人たつねえめんべつ
 ちやうがたすねる
 くらいのんないものさ
 たづねたててもつない
 らうめんがめんべつめん
 べつあちちあくして
 まつらのとさいてさ
 そのとさおし
 のをともつてあめんべつ
 ものふしたうめんべつ
 うるめんべつめんべつ
 むくふしめんべつ
 かあめんべつめんべつ



ひろきよのハきん
 ふがーをれ
 たりは面よ
 べつをくりま
 あんところ



あまむいさまめんべつ
 のふつねえめんべつ
 人たつねえめんべつ
 ちやうがたすねる
 くらいのんないものさ
 たづねたててもつない
 らうめんがめんべつめん
 べつあちちあくして
 まつらのとさいてさ
 そのとさおし
 のをともつてあめんべつ
 ものふしたうめんべつ
 うるめんべつめんべつ
 むくふしめんべつ
 かあめんべつめんべつ

扱きんこし平
 何けたら又さ
 たまたまよめやあり
 九つハきき福んや



さよふてあさしす
 だんをささの大小
 上よりし再ひ下分
 再ひ試み天利て
 二さりキサとかく
 せよの何さやう小
 ありかいてゆさせよの
 才一由武を小才
 全まかり米ハヤサ
 たりし上の上十込て
 せ小六でハ一舞が
 舞が百三十又米友
 六の附ハ百又小舞
 二舞法色ちこささ
 何もハさきしハ一
 今年 花つたうい
 一也

ういさせのたうハ
 何れおろさーつ
 今ももの



多んとすを石三付
 十さきりもす
 伏山よみさく物
 上より又合ハセ
 七さかの合限帳
 付かささいもの
 下れんと去さ
 さいんたけを
 ちうくさるる

是より人よりききもつて侍とわかれお女はけき町
あるの合とりの已きやん人つたすてけ創すます
付上の位とぬすけ推し殿とありまも上給すます
先づおきものいさ合お命令とらう一給もの合す
ちん附うしなる人のおあり万のちんまよまよま
りふいおすますきま一人合しあふ村はとのさ
のあけきさむり世のさいしをゆか人のさいのめを
思ひやりもしても大おさすういもつり成家のとど
ハ万代ふまきとらう又下りはりのめとおあるま
と
くれらとらうすを方あんが
つしきとらうまんつきぬが
まんあかかくのどくまをさんよすいのロエーてん
うんくびまがりつりといも人買アする時ハ已
已をと思ひし村ごんすどエあるといも
又もとのてくまがら生れつきり
ものまつたのとく又生れつきよま
くうくのてくまびとエ
いんろまびとらうま
あふものまらうてくまびとエ
又ハ



幼高くそ人もむらもまをまを遣放す付ハ

他はつた五のま花もの又入迎これ
全く代袋只まをといももを改す
魚小やれとまらりか
これま改るこれあり又
ちんまらうま一お小遊人の
根をたててまらす二ハ
いんろまびとらうま
時ハ当人村役人とま付室村
うさり中合居宅の外小
あを修り不持ものその木アへ
入室とまハ才一御上占たい
又二ハ小ハ父母の孝三ハ小ハ玉民小
ふれいお一から魚小お不持成魚小
おり入室をまらうまらうまらうまらうまらうま
かハ万代ハあもすこれ全古人の合まを
いんろまびとらうま
はむとらうとたつて父改るの出
たるませるこれあし口入らうより
またく一があんあうこれあし一てかくのこ



またく一があんあうこれあし一てかくのこ



皆て曰夫大なるを以て後につくして
 智らずく故に利の原の空
 と其れを以て後につくして
 りるよ人が其れを以て又ゆ備
 りて不けんはと備はらん

予さすをめを別の二つを以てと
 利法天とと作りのを由と
 利ハ聖徳を子法ハ教如年
 八階大言言徳徳日十の子
 其れを以て十婦十東の十
 其の男子ハ不事と定め
 今より仁義禮智信ト改
 其れを以て十婦十東の十
 其の男子ハ不事と定め
 今より仁義禮智信ト改
 其れを以て十婦十東の十
 其の男子ハ不事と定め
 今より仁義禮智信ト改



しててす利を以て其れを
 みらく時ハ利の原の空
 其れを以て後につくして
 け宝と以て利を以て後につくして
 孝の本とすまを以て後につくして
 其れを以て後につくして
 其れを以て後につくして
 其れを以て後につくして



そのありまの空
 と其れを以て

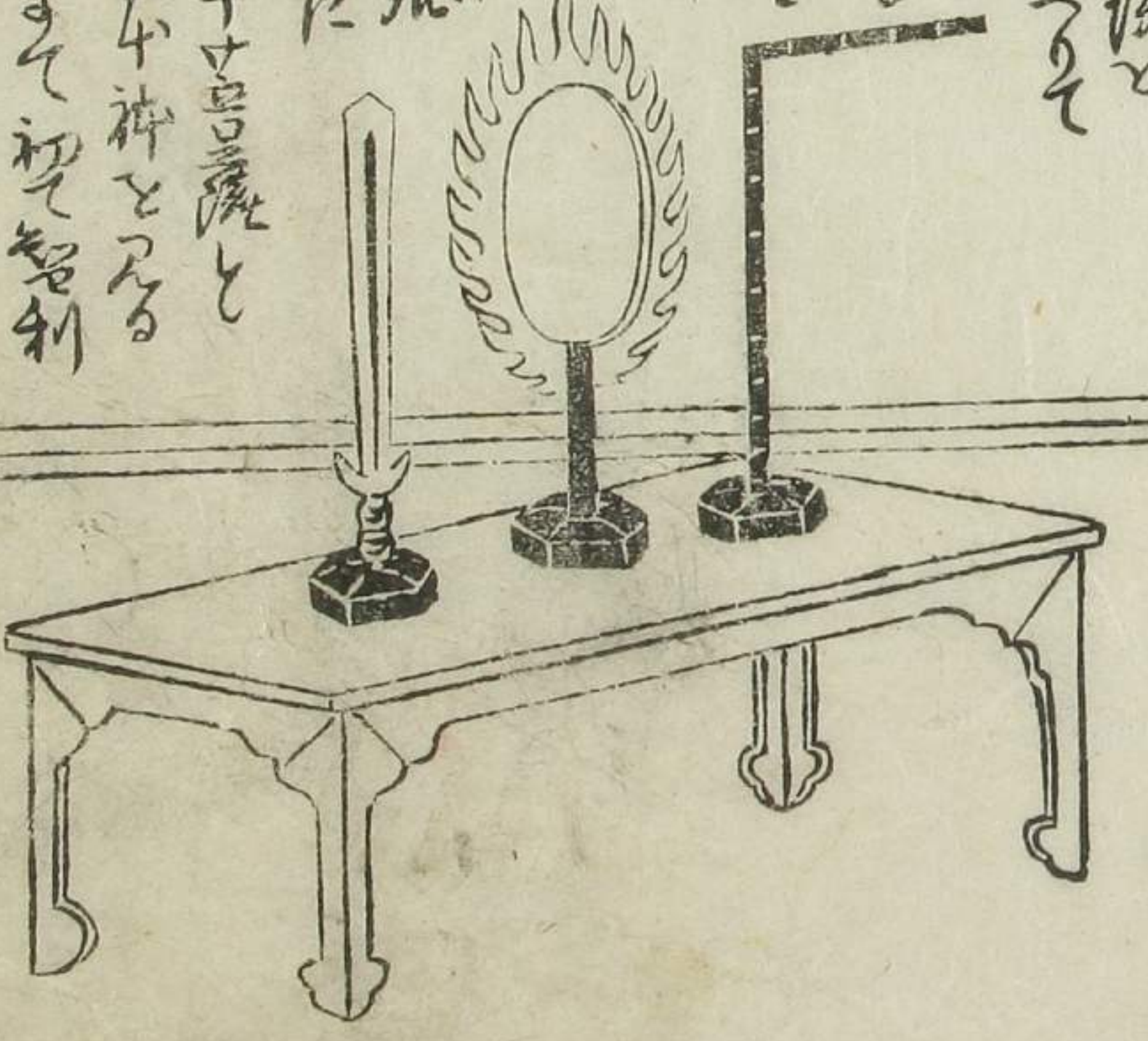
夕のいか
 何れいの人
 神の又素
 民のすれ
 思ふよりそ

何れいの人
 神の又素
 民のすれ
 思ふよりそ
 又二とあまひひりか
 ぬてゆきひ又みり
 日あまとおほしき
 ぬてゆきひ又みり
 日あまとおほしき



五穀りくみのふも
 神のおせ伝さよ
 代を字りるを
 民の常あり

のせまぐらけて候し
 志より又志
 思ひて候し
 位官を
 浪と指さし
 何れいの人
 神の又素
 民のすれ
 思ふよりそ



死す子
 何れいの人
 神の又素
 民のすれ
 思ふよりそ

悴れともたびにいふ所のつくた
 ちをいふ人をもたたくりていふ
 ことをいふ人をもたたくりていふ
 つげたえんをいふ人をもたたくり
 當座(せちよ)をいふ人をもたたくり
 人をいふ人をもたたくりていふ
 ことをいふ人をもたたくりていふ
 もんせよ又そそりて
 ともし今日より
 七日のうちをい
 をいふ人をもたたくり
 けたかかかか
 ころすだあり
 ともつて何たへありとも
 たちのいふいふをいふとも
 をいふ人をもたたくりていふ
 をいふ人をもたたくりていふ
 をいふ人をもたたくりていふ



仁
 仁
 仁

義
 義
 義

うちのかわりていふものいふこと
 礼
 礼
 礼



信
 信
 信

信
 信
 信

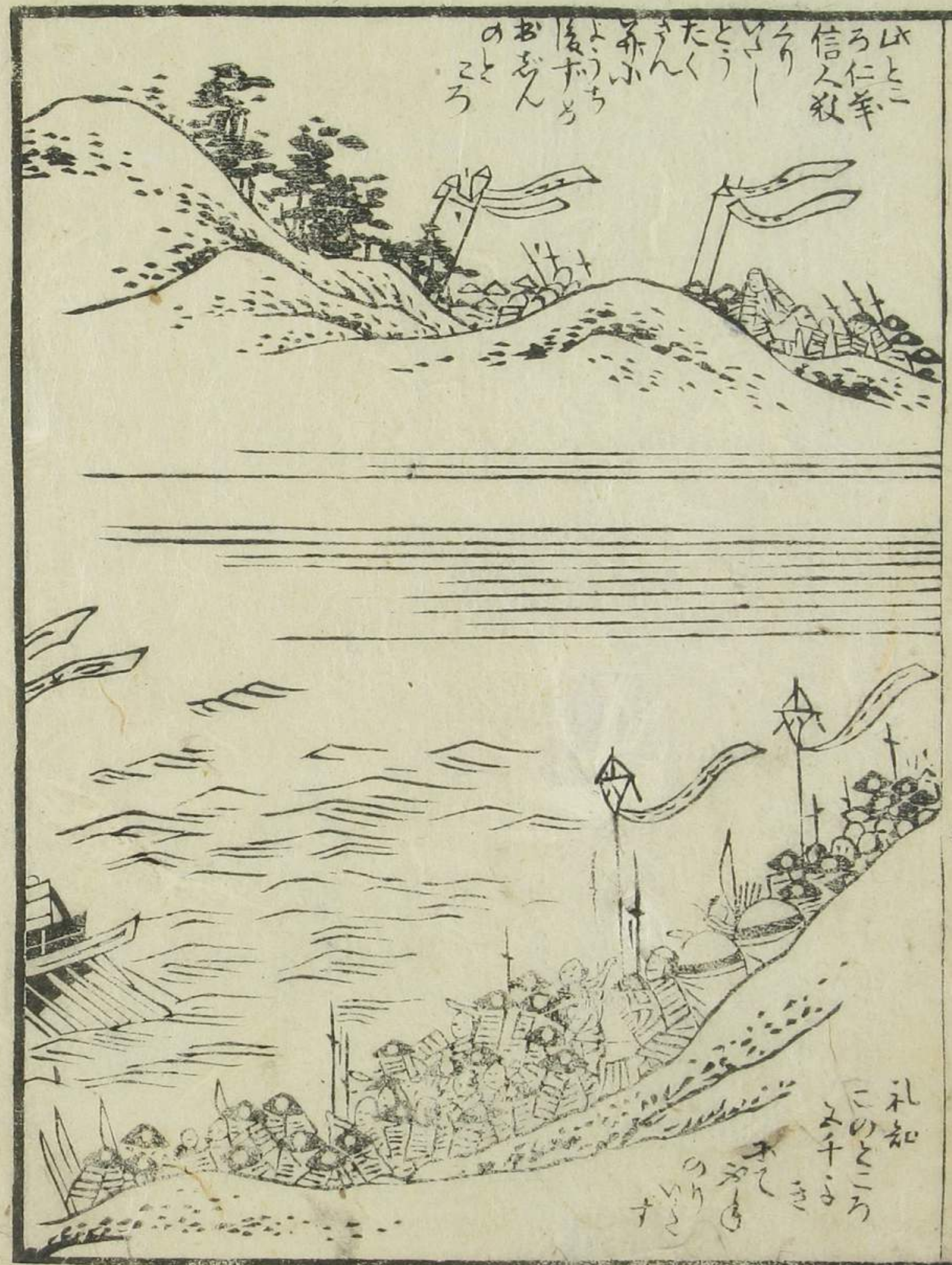
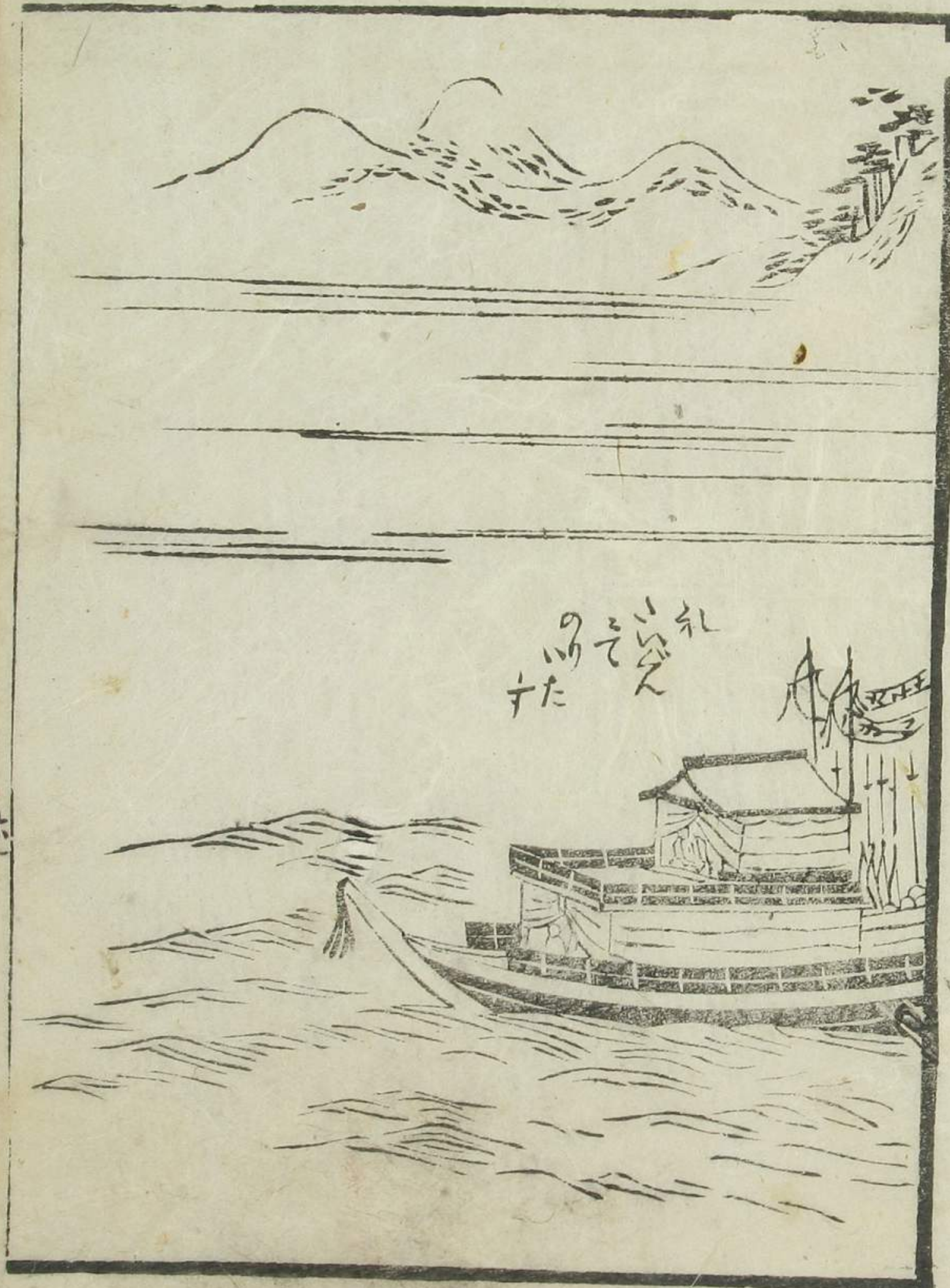
八幡大菩薩

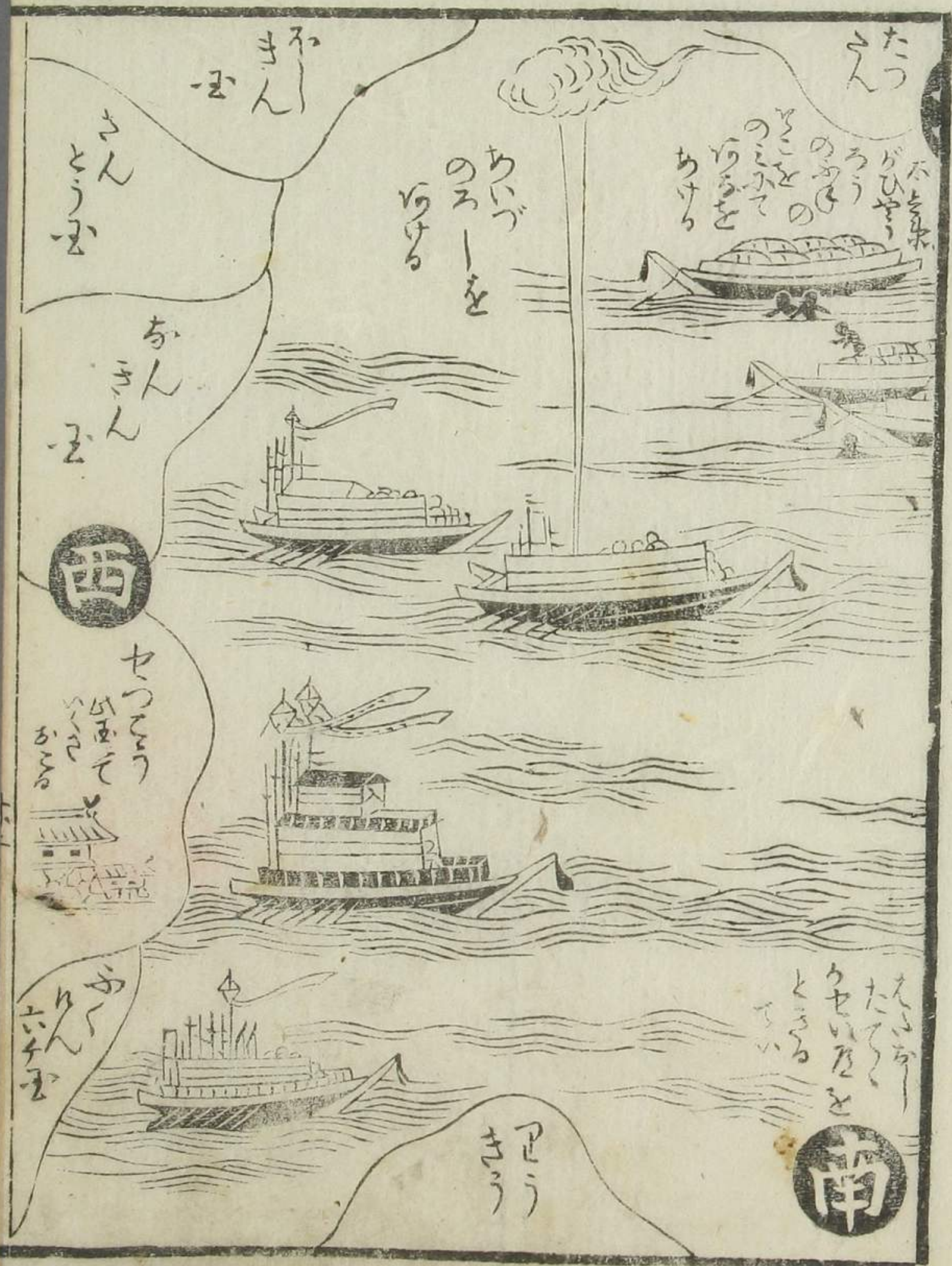
去、後、ま、西、田、を、経、て、解、小
 か、ふ、ぬ、ま、え、よ、し、な、し、を、と
 申、地、入、の、よ、く、是、ま、り、の、て
 解、は、山、の、ま、ま、は、解、と、あり
 一、の、申、す、ま、知、大、指、は、て、三、あ、は
 こ、め、に、き、柵、と、な、れ、ぬ、ひ、お、と
 又、一、り、り、は、大、指、と、り、上、級、と、い、つ
 ひ、さ、む、か、く、波、は、ま、て、お、す、ま、二、柵、の
 大、指、八、倍、お、ま、ま、ま、ま、に、て、一、の、柵、の、お、ま、ま、
 後、ま、一、家、ま、ま、の、柵、は、原、は、一、礼、
 又、お、ま、ま、ま、ま、て、日、本、の、身、は、お、ま、ま、ま、ま、
 さ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 公、和、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

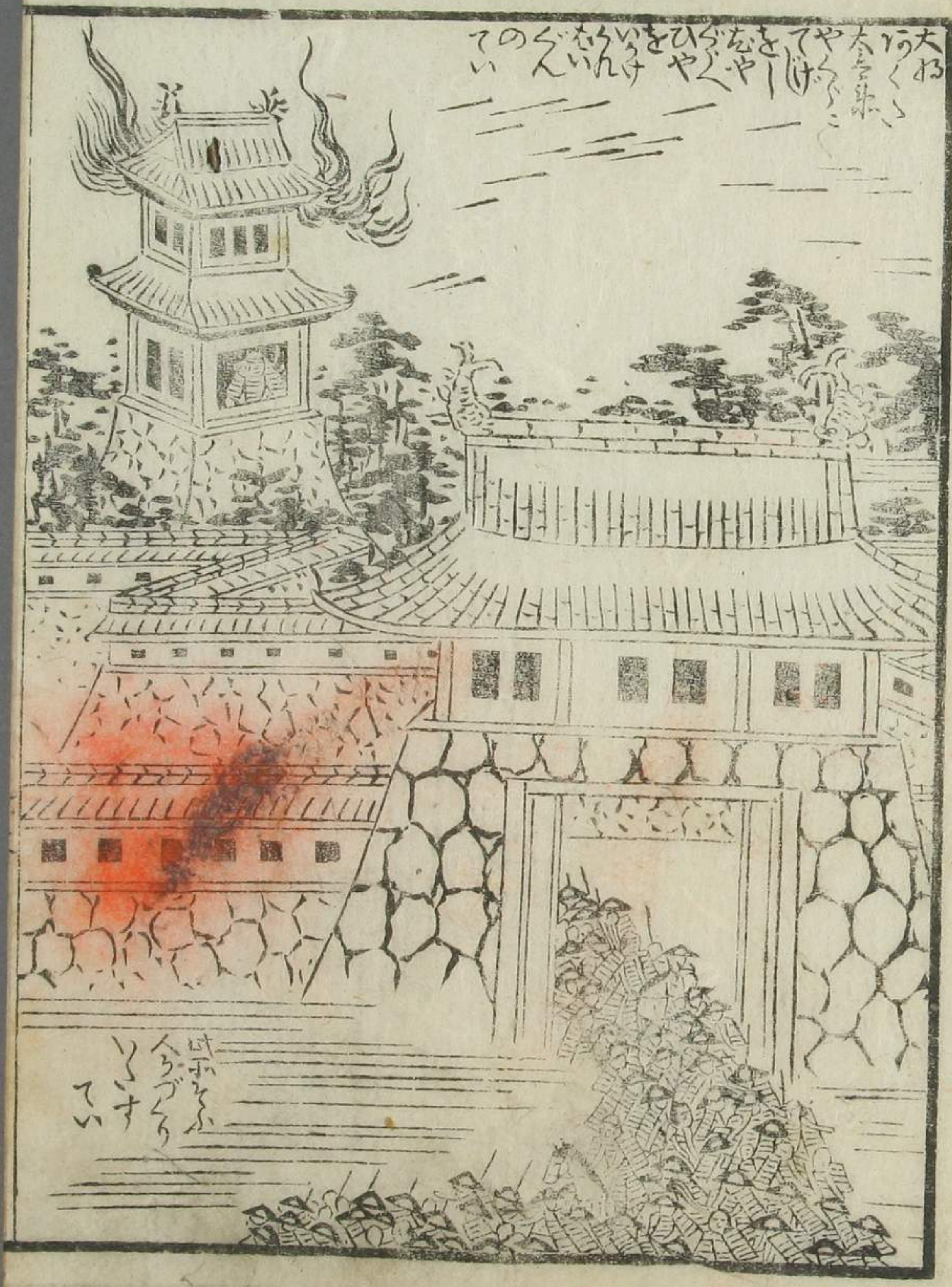


子、よ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 知、は、後、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 より、十、七、八、は、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 八、倍、大、海、と、い、ふ、お、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 う、せ、お、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 人、知、解、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 解、お、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 し、た、め、一、り、り、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 相、解、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 の、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 お、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 ち、ろ、下









大内 大内 大内
大内 大内 大内
大内 大内 大内
大内 大内 大内

大内 大内 大内
大内 大内 大内
大内 大内 大内



大内 大内 大内
大内 大内 大内
大内 大内 大内
大内 大内 大内



大ねき松改る
 とくたし山小いさか
 さくより弓後地て
 うちすくち
 うくくさ大ま師
 うちほらひす



さういんさ
 りくく大ま師
 并小原老
 二八七弁ら地
 らせり
 のてい

たいしに似たり上
 よろく上一人を
 さかんまよしく
 がたらいあり
 皇まで八圖みど
 ろくろつあるま
 こしは民妻の
 後城の
 天の
 御代



山
 白
 我
 谷

西か
 色
 因
 所代



天明八申年他之

聖之商年弘之

賣弘而

画工

勝川春泉

上村也店

菊屋新五郎板

Ghostly bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 菊屋新五郎 and 天明八申年.

